

3ヵ月市況予測 山頼敏彦・代表専務取締役が寄稿

Ni相場はSUS余剰感強く\$10/lb前後と横ばいか

ニッケル(Ni)やコバルト(Co)相場は、1~3月に中国など新興国の市場拡大、商品市況への投機資金流入などで上昇していたが、4~6月は一転して調整に見舞われた。今後3ヵ月の相場について、今年5月10日の定時株主総会・取締役会で代表取締役に就任したメタルドゥ・専務取締役の山頼敏彦氏(写真・左下)にニッケル相場、営業部貿易課長の片山こころ氏にコバルト相場を寄稿してもらった。



ニッケルのLME相場は世界情勢が不安定の中、投機筋の手仕舞い売りなどで大幅下落。5月初旬に26,000ドル/t台(12ドル/lb台)から3~4日で約2,000ドル/t下落。その後も続落し、足元は22,000ドル/t(10ドル/lb)割れと弱含みで推移している。

需要の約60%を占めるステンレス向けでは、中国の生産調整とステンレスコイル製品のだぶつきで、製品価格も大幅下落中。また、ニッケル銑鉄の生産量も増加しており、夏場の前倒し生産もあるものの、月産約20,000tであり、在庫も潤沢である。ヨーロッパのステンレスミルも、5月のLME下落までは自動車関連など好調で推移し、生産が順調で在庫積み増しの方向にあった。だが、6月から先行きの需要減のため、生産調整に入った。国内ステンレスメーカーも夏場の電力制限で減産となる。

ニッケル水素2次電池(Ni-MH)は、震災の影響で3~5月は減産であったが、6月以降はハイブリッド車向けに

増産の見込み。メッキ、スーパーアロイも同様と考える。

2011年世界生産では、新規鉱山開発のGoro鉱山が7月稼働開始予定で、年産40,000tが予定されている。また、ブラジルのBarro Alto鉱山はすでに生産が開始されている。ステンレス製品の余剰感や需要減のため、世界的に生産調整に入っているなど、弱含み材料が多い。投機筋の介入がなく、需給バランスでの相場であるとすれば、この先相場は期待薄となる。ヨーロッパの財政危機、中国の金融引締め、アメリカの金融緩和、中東問題などの不確定要素が多い中であるが、7~9月のニッケル価格は9.53~10.66ドル/lb(21,000~23,500ドル/t)と予想する。

Co相場は足元の供給過剰で14.50~16.50ドル/lbか

コバルト相場は、中国の供給過剰が今日の国際相場下落に作用している。足元は年初のコバルト国際相場から約10%下げ、需給は緩んだ状況が続く。中国産の地金価格は下げ続けており、夏休みシーズンを前にさらに低調になると思われる。好調と期待されていた電池向けや超硬向けの需要が季節要因で在庫調整にはいり、メーカーも値下げにに応じている。今後は海外でシェア拡大を図っていくために、電池向けの3元系正極材は増値税の輸出還付制度(17% VATのうち一部還付される)を検討され始め、さらに中国産化成品メーカーは価格競争を強いられる。長期的には電池、航空機などで需要拡大が期待されるために、中国の大手メーカーは先行投資をはじめており、来年にかけて約6,500~7,000t増産するという情報もある。一方、足元では供給過剰のため相場は低調に転じている。トレーダーのメンタルにも影響し、今しばらく弱気ムードが続くのではないかと思われる。7~9月相場はLow gradeで14.50~16.50ドル/lbと予想。